

2月23日 本日の為替見通し

ポイント

ギリシャ第2次支援のメイン・イベントも終わり、その支援条件をギリシャが確実に実行できるのか？ その結果待ちの状態、ギリシャに関連する多くのニュースにも反応は鈍くなっている。

フィッチは、ギリシャの格付けを「CCC」→「C」に格下げし、「デフォルトの可能性は短期的に高い」と言っても、「債務交換は制限的デフォルトにつながる」といっても市場の反応は鈍く、ダラーラ IIF 専務理事が、「ギリシャ債を保証する CDS の決済の要求を止めることはできないが、CDS 決済が起これば債務削減合意が成功する可能性はなくなるだろう」と言っても、誰も気に留めず。EURUSDは1.32以下の買いと1.33台の売りに挟まれて安定相場……。

変わって旬を迎えたのはUSDJPYで、長期に渡り脇役に徹していた「円」は、ようやく、待ちに待った80円の大台に乗せ、USDJPYの上昇をリードする、NZDJPY、AUDJPY、CADJPYの買いにも助けられ、なかなか下がる気配を見せていない。

3月の本邦本決済の円買いとか、ギリシャ問題がこじれた末に安全資産の円買いへと動く可能性は否定できないが、一方では、「短期間で大幅上昇は、揺り戻しが大きい」との相場のセオリーもあるが、最近のUSDJPYは2月3日(金曜)を起りに「緩やかな、かつ、確実に上昇」を続け、強い上昇パターンに入っていると言えなくもない。

一方、今まで相場をリードしていたが、NZD、AUD、CADは、対円では上昇を続けているが、対ドルでは伸び悩み、テクニカルでは上昇を続けるか、売りに反転するか注意するポイントに差し掛かっている。

目先は、重要な会議も多い。今週末の25日～26日には、G20財務相・中央銀行総裁会議がメキシコ市で開催されるが、米国などの反対もあり、EU首脳会議を前にIMFの財源強化に関する決定は行われまいと言われている。

3月1日～2日にはEU首脳会議がブラッセルで開催され、ギリシャの財政主権制限やEFSFとESMの問題について話し合うと言われている。ベニゼロス・ギリシャ財務相は、EU首脳会議の前にユーロ圏財務相会合を開催すると言っているが、まだまだ、政治的な日程が続く、目が離せない。

本日は、独IFOの景気動向指数があり、昨日独・ユーロ圏のPMIが弱くEURUSDの上値を抑えていたが、本日も注目されている。また、米国の新規失業保険申請件数、米住宅価格指数も注目されている。

本日の重要な経済指標 発言・その他

◎発言・その他

01:00 週間石油在庫統計
02:30 カーニー加中銀総裁 講演
03:00 米7年債入札
07:30 スティーブンス豪中銀総裁(下院の経済委員会で証言)
独首相・欧州委員長・EU大統領会談(ベルリン)
ギリシャ議会、集団行動条項(CAC)法案の採決の予定

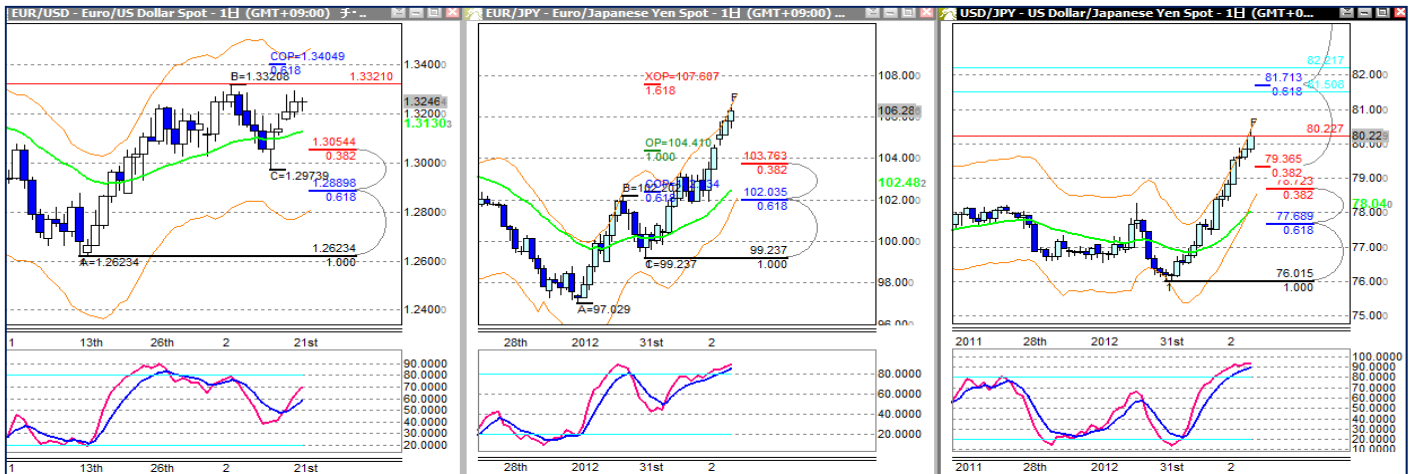
◎注目の経済指標

18:00 独IFO 景気動向指数
22:30 米新規失業保険申請件数
0:00 米住宅価格指数

本日の主な経済指標と発表予定

18:00	GER 2月 IFO 景気動向指数=予想 108.8 前回 108.3、現況指数=予想 116.5 前回 116.3、期待指数=予想 102.0 前回 100.9
18:30	GBP 1月 BBA 住宅ローン承認件数=予想 36250 件 前回 36171 件
20:00	GBP 2月 英国産業連盟(CBI)トレンド注文総量=予想-13 前回-16、トレンド販売価格=予想 12 前回 13
22:30	USD 2月 新規失業保険申請件数=予想 35.5 万件 前回 34.8 万件
0:00	USD 12月 住宅価格指数=前月比予想 0.1% 前回 1.0%

EURUSD・EURJPY・USDJPY のマーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3130、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=1.3443、DOPdn=1.2787。スロー・ストキャスティックは%K=70.17、%D=59.05、買いを継続、ベースはやや買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 1.3321、1.3405、下値のポイントは 1.3130、1.3054。予想レンジは 1.3150 ~1.3320。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 102.48、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=106.54、DOPdn=101.49。スロー・ストキャスティックは%K=90.65、%D=86.15、買いを継続し、トレンドのある上昇への動きの可能性も強く、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 106.54、107.61、下値のポイントは 104.51、103.76。予想レンジは 104.50~107.50。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 78.04、この線を下限に上昇トレンドが続いている。DOPup=80.42、DOPdn=78.22。スロー・ストキャスティックは%K=94.14、%D=90.44 で、買いを継続し、トレンドのある上昇なのか、売りへ変化するかを注視、ベース買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 81.51、81.71、下値のポイントは 79.37、78.72。予想レンジは 79.50~81.50。

本日のCFD見通し

Spot.WTIとSpot.Goldのマーケット・レベル

ポイント

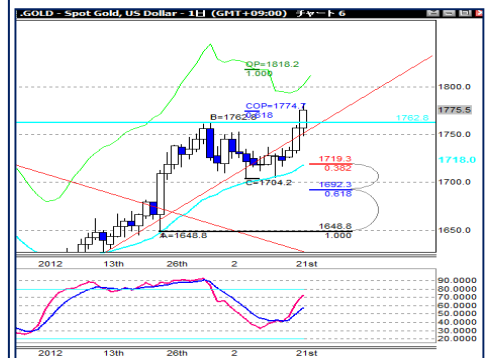
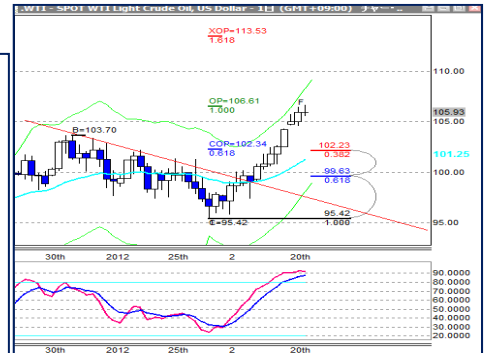
イランはIAEA(国際原子力機関)の軍事基地への立ち入り要請を拒否し、IAEAはテヘランから帰国し査察は失敗に終わり、イラクは平和的な原子力エネルギーの権利を行使しており、交渉することは何もないと言いつ平行線をたどっている。中国のHSBC製造豪PMIは、予想を上回ったが、4か月連続50を割り込み製造業活動の縮小、燃料需要の減少も危惧されている。金価格は、テクニカルにも買いの流れが強まっていたが、FT紙が「米国はツイストオペを6月30日の期限後も延長」との報道や、米国がシリアの反体制派への武器供与を示唆しテクニカルポイントをブレイク、買いの流れが続く可能性も出ている。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは101.25で引き続き強い上昇トレンドが続き、ストキャスティクスがトレンドのある上昇を続けている可能性も出てきている。イランがIAEAの査察を拒否、西側諸国への揺さぶりを続けている。また、米国がシリアの反体制派への武器供与の可能性を示唆したことで、買いの流れが強まっている。

◎Spot.Gold

EMAは1718.04で上昇トレンドが続き、1762.8の上値を抜けたことで買いの流れに拍車がかかっている。ストキャスティクスも買いを継続、イランがIAEAの査察を拒否、西側諸国への揺さぶりを続けている。また、米国がシリアの反体制派への武器供与の可能性を示唆したことで、買いの流れが強まっている。



Spot.WTI(Light Crude Oil)(.WTI日足) = 25 日指数移動平均線は 101.25、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=108.28、DOPdn=98.07。スロー・ストキャスティックは%K=91.49、%D=88.30で、トレンドのある上昇なのか、売りへの変化なのか注視、ベースは買われ過ぎゾーン。上値のポイントは 106.61、113.53。下値のポイントは 104.62、104.24。予想レンジは 104.50~106.61、113.53。

Spot.Gold(.GOLD日足) = 25 日指数移行平均線は、1718.04、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=1801.94、DOPdn=1615.13。スロー・ストキャスティックは%K=72.77、%D=57.58で、変化し買いを継続、ベースはやや買われ過ぎゾーンに近い。上値のポイントは 1801.94、1818.2、下値のポイントは 1762.8、1713.45、1719.3。レンジ予想は 1750~1800。

前日の海外市場の動き

ギリシャ第2次支援と言う一大イベントが終わり、支援約束の実行待ちの中で、次のイベントを探しながら円売りの流れが加速している。中国シンクタンクが、「今年の中国経済がハードランディングに陥る見通し」を流し、HSBC製造業PMIは4か月連続で50を割り込み景気先行きに不安感が強まり、テクニカルも売りに傾きつつあるAUD+NZDは売りの流れが続いた。BOEのPMC議事録で予想外に2名が資産買入枠の拡大を支持、GBP売りの流れが強まるなかで、EURGBPは上昇。EURUSDは、独・ユーロ圏のPMIは総じて弱く、軟調な株価とフィッチのギリシャ格下げに上昇力は鈍く狭いレンジで推移した。旬のJPYは、注目された80.00の大台に到達し大口の売りを消化しながら80円台を維持、円売りの強い流れが続いた。株価は総じて弱く、債券市場ではドイツ・英国10年債の利回りは大幅に低下し、米国市場の終盤では金価格が大幅に上昇した。

- ◎中国のHSBC製造業PMIは、予想を上回ったが、4か月連続50を割り込み製造業活動の縮小が示された
- ◎白川日銀総裁は、1%の物価上昇をめざし強力で金融緩和を推進する→USDJPYの買い材料となり80円台へ上昇
- ◎独製造業PMI、サービス業PMIは、予想を大幅に下回る→EUR売りへ変化
- ◎ユーロ圏製造業PMI、サービス業PMI、総合PMIは、予想を下回る→EUR売りの流れが続いた
- ◎ユーロ圏鉱工業新規受注は、予想大幅に上回る→EUR買いは限定的
- ◎BOE金融政策委員会(MPC)議事録公表は、7対2で資産買入枠を500億ポンド拡大、2名は750億ポンドの拡大を主張、政策金利の据え置きは全会一致→2名が資産買入枠の拡大を主張していたことがわかり、GBP急落へ
- ◎フィッチ、ギリシャを格下げし、債務交換は制限的デフォルトにつながる恐れ→EUR相場への反応は鈍い
- ◎米中古住宅販売・在庫は、予想を下回るが一年半ぶりの高水準、在庫は7年ぶりの水準に減少→

USDJPY アジア市場は、79.73で取引が始まり直後の79.67を底値に、日経平均株価の上昇や堅調なアジア株に円売りが強まり、79.90近くまで上昇、白川日銀総裁の「1%の物価上昇をめざし強力で金融緩和を推進する」との報道に、80.00のオプションバリアをつけ80.07まで上昇した。欧州市場に入ると、一時79.94まで値を下げたが、オプション絡みの買い、米資本筋や本邦勢の買い戻しに80.29まで上昇、大口の売りを飲み込み80.35まで続伸した。米国市場に入っても円売りの流れは止まらず、80.20を底値に、ロンドンフィキシングでは一時80.40まで上昇、大枠80.20~40のレンジで推移した。

EURUSD アジア市場は、1.3232で取引が始まり、昨日の上下のポイントとなる1.3200以下の買いと1.3280以上の売りに挟まれて、大枠1.3210~40のレンジで取引が続いた。欧州市場は、中東・東欧勢の買いに一時1.3260台まで上昇したが、独・ユーロ圏の各PMIが弱く1.3217まで下落、GBPUSDの売りの流れに下値を試したが、失敗、大枠1.3220~40のレンジで取引が続いた。米国市場に入っても上下共に動けずレンジ内で推移し、フィッチのギリシャ格下げや米経済指標にも反応は鈍く、ロンドンフィキシングでは一時1.3266まで上昇したが続かず、大枠1.3240~60のレンジで推移した。

AUDUSD アジア市場は、1.0598で取引が始まり、一時1.0673まで上昇から1.0644まで下落、アジア勢の買いに1.0670台まで値を戻したが、ファンド筋の売りの流れに1.0610近くまで下落、中国のHSBC製造業PMIは予想を上回ったが、4ヶ月連続50を割り込み売りの材料とされたが、AUDJPYの買いに1.0670台まで上昇した。欧州市場は、一時1.06850近くまで上昇したが、ファンド筋の利食い売りが続き、欧州株価やリスク資産は総じて弱く、EURUSDの下げに1.0630割れまで値を下げた。米国市場は、一時1.0600割れのストップを試す動きに一時1.0605まで値を下げたが、失敗、ロンドンフィキシングには1.0650近くまで上昇、大枠1.0620~60で推移した。

金・原油価格

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、105.99で取引が始まり、利食いの売りに一時105.68まで値を下げたが、堅調な株価に106.29まで上昇した。欧州市場は、一時106.38まで上昇し値を試す買いが続いたが、前日の高値106.44を超えることはできず、EURUSDの下げに105.60近くまで続落、大枠105.60~106.10のレンジで上下した。米国市場に入っても、IAEAがイランの査察拒否で帰国へ、米ホワイトハウス、国務省の報道官やシリアの反体制派への武器供与の可能性を示唆、一時106.69まで上昇したが、大枠105.60~106.30のレンジで売り買いが交錯した

◎Spot.Gold

アジア市場は、1756.5で取引が始まり、前日高値となる1760を意識しながら、利食いの売りに1753.8まで値を下げたが底堅く、大枠1754~58の狭いレンジで取引が続いた。欧州市場に入ると、一時1759.3まで上昇したが、前日の高値を超えることができず、EURUSDの下げに1752近くまで徐々に値を下げた。米国市場に入ると、1750割れのストップを試し一時1748.9まで値を下げたが、失敗、1757.8まで値を戻し、元の水準近くで取引が続いたが、FT紙が「米国はツイストオペを6月30日の期限後も延長」との報道に、上昇が始まり、1760を超え、2月3日の高値1762.8を超え買いの流れが加速し、昨年11月17日来的高値水準となる、1781.6まで続伸した。

前日の主な発言・出来事

	欧州関連
	レーン欧州委員会委員＝◎ファイアーウォール強化にESMとEFSFの併用が必要
	メルケル独首相＝◎ユーロ圏團結には財政規律が必要 ◎ギリシャ支援の条件となった債務削減の公約を果たすようにギリシャに圧力を維持する
	メルケル独首相＝◎欧州に金融取引税の導入を要望 ◎ユーロ圏は信頼を構築する必要がある ◎EUによるギリシャ、ポルトガル、アイルランド向けの支援は正しい
	欧州委員会＝◎ハンガリー向けの約束基金の補助金供与を、財政赤字削減で適切な措置が講じられず、2013年から一部停止する方針→ハンガリーは、追加の財政再建策を打ち出したが、欧州委員の決定を変えず、根拠はなく不当と反発
	バローゾ欧州委員会委員長＝◎欧州には財政規律の引き締めだけでなく、経済成長と競争力を高める戦略が必要 ◎欧州は厳しい経済状況に直面しており、経済成長を強化する改革に着手する必要がある
	レーン欧州委員会委員＝◎ハンガリーは2013年も財政赤字3%上限を守れない
	ザイベルト独政府報道官＝◎ドイツはESMについて強いシグナルを送る用意 ◎ドイツは支援国への金利を削減する計画はない ◎ESMの拡大は必要ないとみている ◎3月の首脳会議でESMを再検討
	イタリア中銀＝◎12月に外国人投資家はイタリア債を235億ユーロ売り越し
	英国・オランダ・スウェーデンはEU2010年執行予算の承認を拒否＝◎各国政府が歳出削減を迫られている時期に予算超過は認められない
	オズボーン英財務相、ボリ・スウェーデン財務相、デヤールヘル・オランダ財務相の共同声明＝◎EU予算は各国の納税者に支えられていることを忘れてはならない、だからこそEUの財政運営の質に対する重要かつ迅速な改善を求める
	欧州委員会＝◎ハンガリー向けのインフレ整備資金援助を停止する提案を22日に採決 ◎持続的な方法で財政赤字を抑制できなかったことに対応

	ギリシャ関連
	ベニゼロス・ギリシャ財務相＝◎債務交換は24日までに正式に告示 ◎ギリシャ法に準拠している国債は3月12日まで、海外法が提供される国債は4月初めに交換が行われ、応じる期間は10日間
	フィッチ＝◎ギリシャの格付けを「CCC」→「C」に格下げ、デフォルトの可能性は短期的に高い ◎債務交換は制限的デフォルトにつながる
	独紙ヴェルトの独自計算＝◎ギリシャ第2次救済後に、ドイツのギリシャ関連のリスクのエクスポージャーが高まる ◎ドイツのギリシャ融資と保証の残高は2014年までに510億ユーロとなり、内310億ユーロが今週合意の救済パッケージに関連 ◎第2次救済前のリスクは300億ユーロで、内100億ユーロはギリシャ債務再編の結果、国有銀行と金融機関に生じる評価損。
	ギリシャ＝◎2012年の財政赤字目標をGDP比6.7%に上方修正し議会に法案を提出 ◎議会が承認済みの2012年予算はGDP比5.4%が目標となっていた ◎別法案の、債務交換実施の法案は、2011年の債務のGDP比は169%を超えていた
	ホイヤー欧州投資銀行(EIB)総裁(独紙ヴェルト)＝◎ギリシャには経済再建を支援する、マーシャルプランが必要
	ダラーラ IIF 専務理事＝◎ヘッジファンドなどのギリシャ国債保有者が債務減免交渉で合意された水準以上の債権回収を目指し、ギリシャ債を保証するクレジット・デフォルト・スワップ(CDS)の決済を求めることを、止めることはできないが、CDSの決済が起こったら、債務削減合意が成功裏に完了する可能性はなくなるだろう

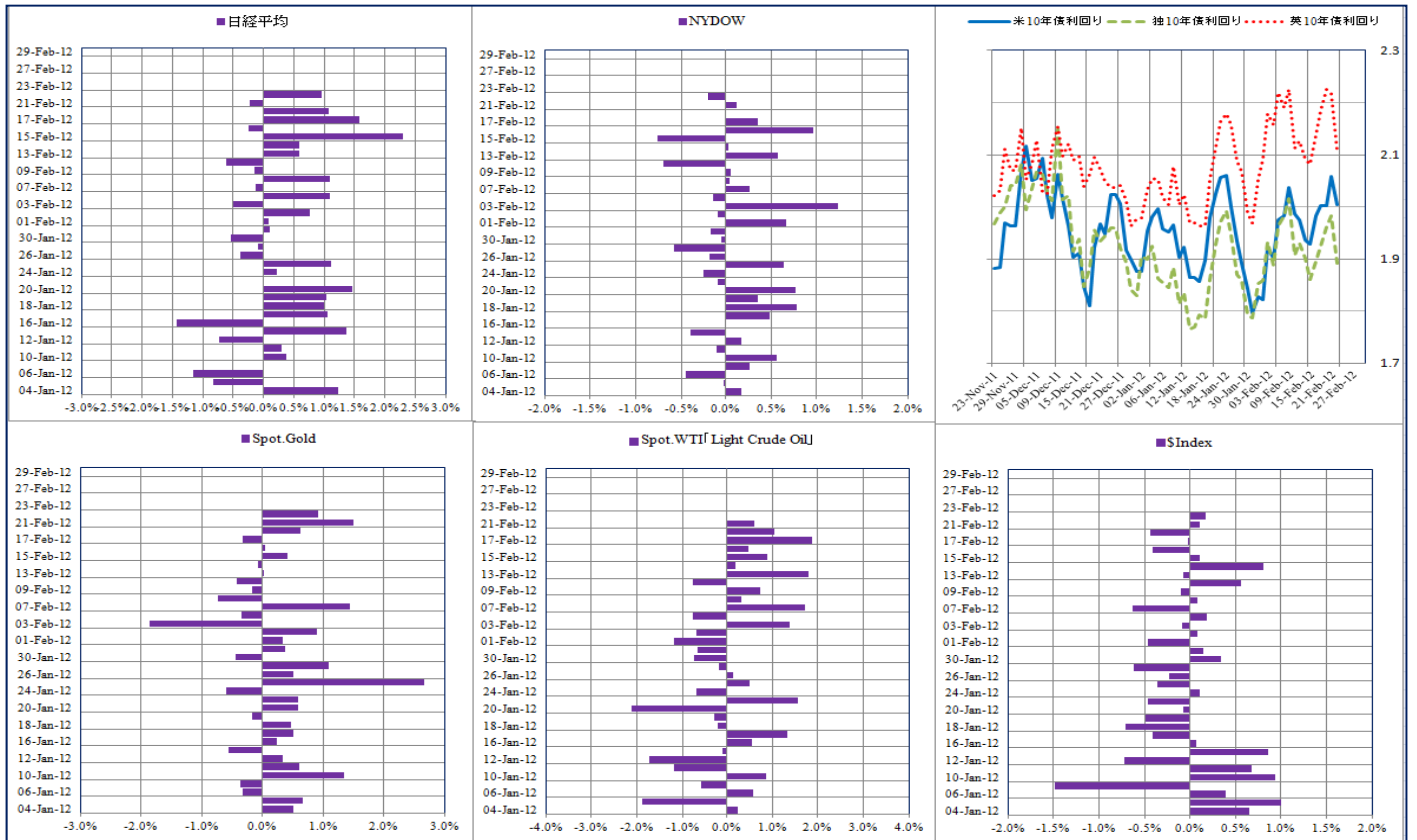
AUD	ラッド・オーストラリア外相が辞任＝◎ギラード首相の支持がなければ、外相職を続けることはできなく、辞任しかない ◎ギラード・オーストラリア首相は、ラッド氏が表明した懸念も、辞任のことも、事前に相談がなく遺憾
CHF	スイス経済相＝◎EUCHFは購買力平価の1.400に近づくことを望む
CHN	中国シンクタンク・経済体制改革研究所・シニアエコノミスト＝◎不動産セクターの不振や世界的需要の鈍化で、中国国経済は今年ハードランディングに陥る見通し
GBP	BOE金融政策委員会(MPC)議事録公表＝◎500億ポンドの資産買入枠の拡大は7対2で決定された ◎ポーゼン氏、マイルズ氏の二人は750億ポンドの拡大を主張した ◎より大幅な拡大は、経済状況が以前よりも悪化したと金融政策委員会(MPC)が考えているとのシグナルを送るリスクがあった ◎政策金利の据え置きは前回一致。
JPY	白川日銀総裁＝◎1%の物価上昇をめざし強力に金融緩和を推進する→USDJPYの買い材料とされる
OTH	イラン＝◎IAEA(国際原子力機関)の軍事基地への立ち入り要請を拒否 ◎IAEAはテヘランから帰国
OTH	イラン外務省報道官＝◎イランは核燃料の前サイクルを習得した、IAEA(国際原子力機関)は作業を監督する ◎平和的な原子力エネルギーの権利を行使しており、交渉することは何もない ◎IAEA査察団のイラン入りは協議のためであり、査察ではない
USD	WSJ紙＝◎米政府は、22日に提示する法人税制改革案で、最高税率を現在の35%から28%に引き下げる

USD	米政府(法人税改正案を公表) = ◎最高税率を 35%→28%に引き下げ、多くの企業が対象となっている税控除の撤廃を提案→大統領選を控え、議会を通過する可能性は低いとみられている
USD	ブレイナード米財務次官 = ◎IMF の財源に関する G20 の議論は欧州がファイアーウォールで行動をとった後 ◎G20 は石油価格上昇のリスクを検討 ◎米国は今年 IMF に増資を求めない
USD	ホワイトハウス、国務省の報道官 = ◎反対派への弾圧が続くシリア情勢で、政治的に解決できない場合は、他の選択肢も検討する ◎反体制派への武器供与の可能性を示唆

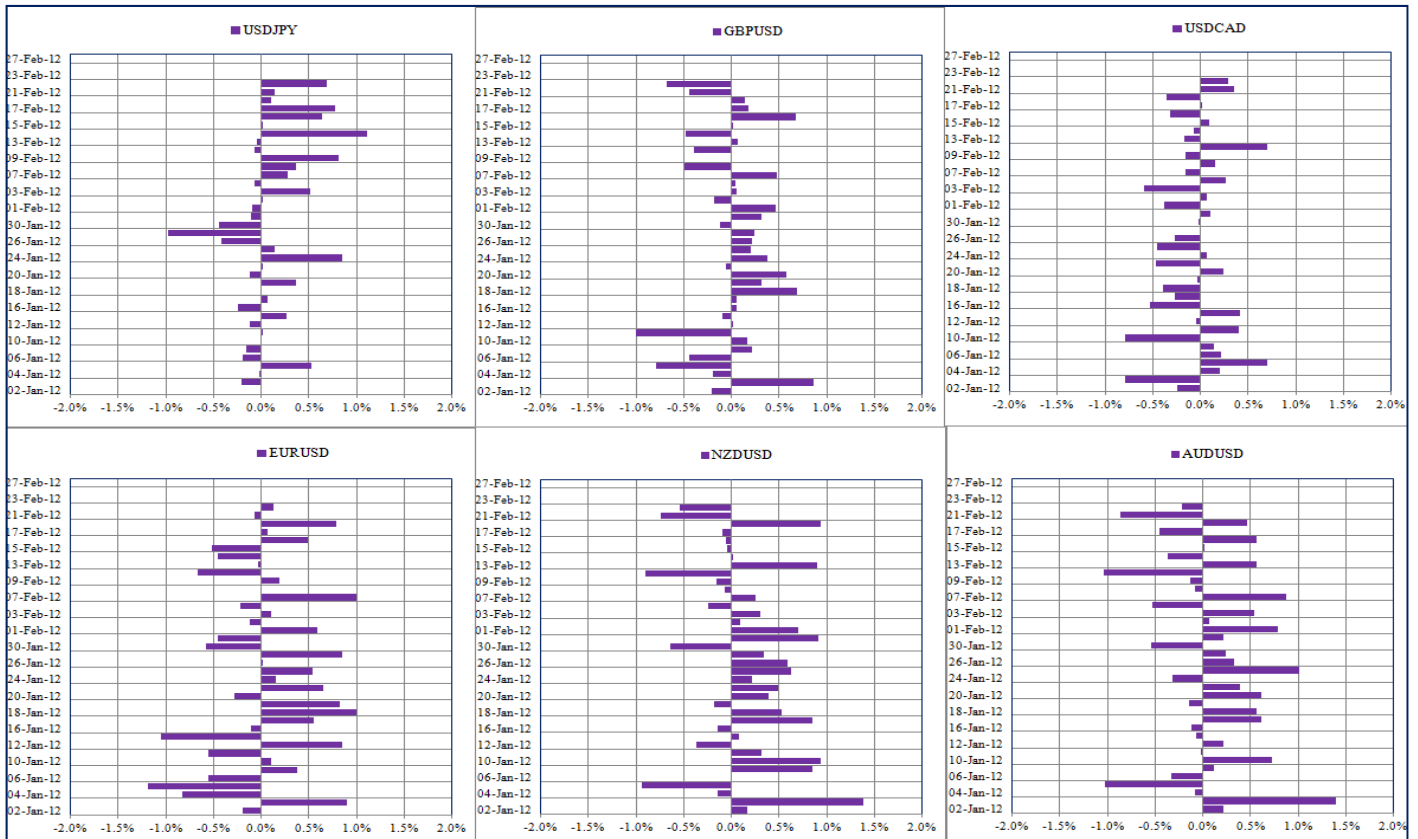
前日の経済指標と結果

8:00	AUD 12月 CB 景気先行指数=0.2%(予想 前回-0.3%)
8:30	AUD 12月 ウェストパック先行指数=0.5%(予想 前回-0.1←-0.2%)
11:30	CHN 2月 HSBC 製造業 PMI=49.7(予想 前回 48.8)
17:30	GER 2月 製造業 PMI=50.1(予想 51.5 前回 51.0)、サービス業 PMI=52.6(予想 53.9 前回 53.7)
18:00	EUR 2月 製造業 PMI=49.0(予想 49.4 前回 48.8)、サービス業 PMI=49.4(予想 50.6 前回 50.4)、総合 PMI=49.7(予想 50.5 前回 50.4)
19:00	EUR 12月 鉱工業新規受注=前月比 1.9%(予想 0.5% 前回-1.1←-1.3%)、前年比-1.7%(予想-2.8% 前回-2.5←-2.7%)
0:00	USD 1月 中古住宅販売件数=前月比 457 万戸・4.3%(予想 466 万戸・1.1% 前回 438 万戸-0.5←461 万戸・5.0%)、住宅在庫=231 万戸(前回 232←238 万戸)

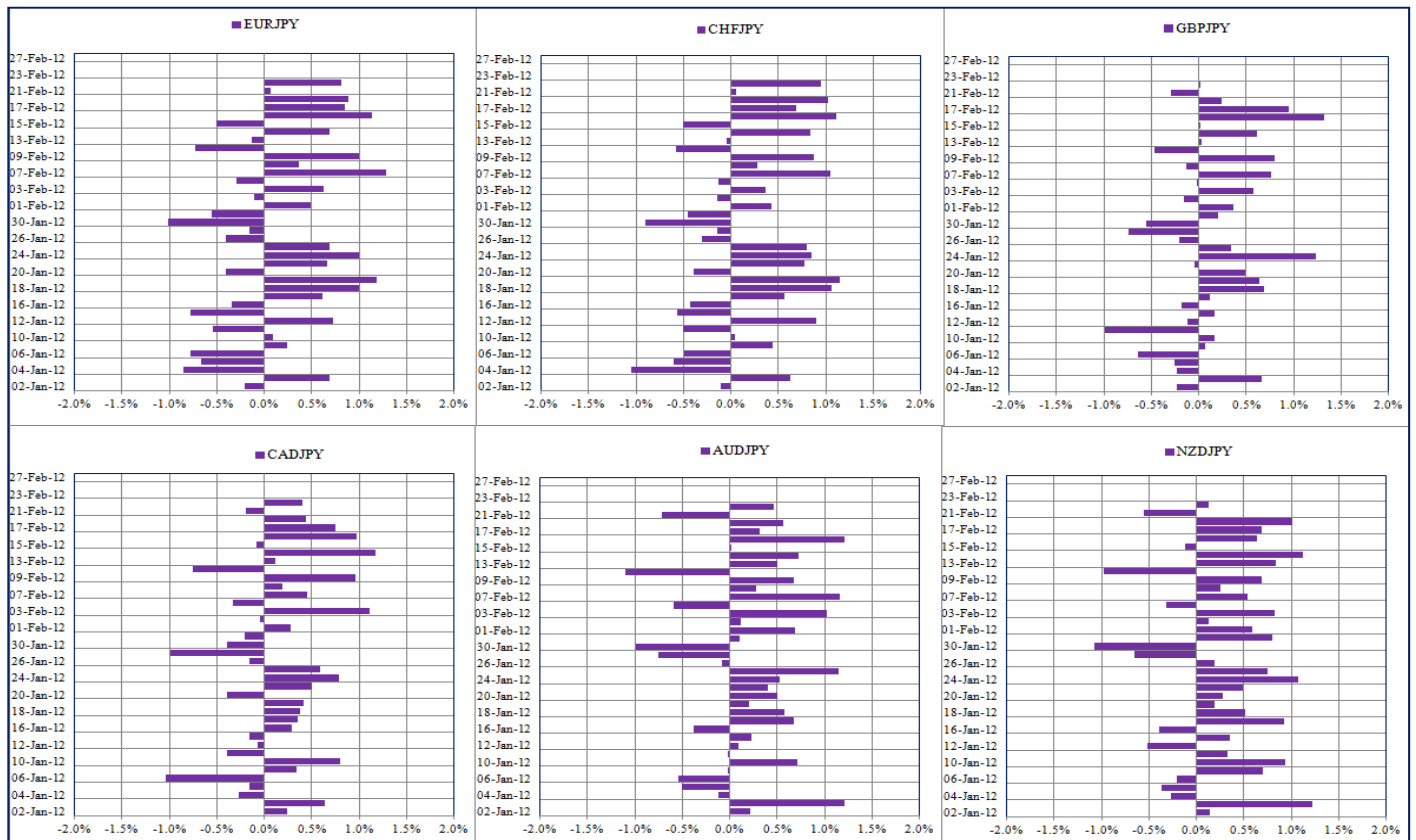
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011